



企業価値向上を支援するプロフェッショナル エコアクション21 審査員



エコアクション21審査員 ^{しばの よしひろ} 柴野 嘉寛 氏

1943 年生まれ。大阪府出身。
大学卒業後、堺市の技術職として環境保全を推進。
堺市のぜんそくの公害病認定にも携わる。
定年退職後、「山と海がみえる」滑川市に妻と移住し、
行政書士柴野嘉寛事務所を設立。
2006 年からエコアクション 21 審査員を務める。
趣味は、コメツツジの手入れと、剣岳の写真撮影。
行政書士、ISO 審査員、環境カウンセラー等取得。
NPO 法人日本環境技術推進機構会長、
富山県リサイクル認定検討会委員を務める。

「気象」に熱中した少年時代

小学校5年生の時に、先生の引率で气象台を見学し、「気象に関する仕事がしたい!!!」と決意したことを覚えています。当時はテレビがまだ普及していない時代ですので、気象情報はラジオからの放送が頼りでした。1日3回、定時に各地点の天候や気圧、風速などの最新情報がアナウンサーによって読み上げられるのですが、小学生の私は夜 10 時の放送を欠かさず聞いて、天気図を作成し、天気を予報することに熱中していました。自称「気象マニア」とでもいいですか。毎日休むことなく、20 歳ごろまで続けていました。

豊富な知識と経験を生かして

大学卒業後に、地元大阪の堺市で技術職に就きました。就職した60年代は、オリンピックが終わり高度経済成長の真ただ中です。大気汚染など公害が大きな社会問題となっていました。スモッグ警報や注意報が出されることもしばしばでしたが、元来、気象への情熱がありますから、気象観測装置を購入して欲しいと上司に懇願しました。初任給3万円の時代に150万円もしましたが予算が下りまして、スモッグの発生予測等に励みました。大阪府の予報より、堺市の私の予報が当たったものです。上司も私の実力を認めてくれていました。



自宅から撮影した剣岳。氷河の存在に惹かれ
学生時代の夏休みは、北アルプスを縦走した。

エコアクション21との出会い

60歳で定年退職し、「山と海がみえるところ」に住みたいという夢を叶えるため、2006 年に富山へ移住しました。滑川の自宅からは、雄々しい剣岳を眺めることができ、第二の人生の出発には相応しいと思いました。

エコアクション21に出会ったのは、移住して直ぐのこと。県内の産業廃棄物関連の団体を通じて、地域事務局からエコアクション21の産廃ガイドラインの審査を県内で担当できる審査員がいないため、引き受けてもらえないかと誘われたことがきっかけです。県内でのエコアクション 21 の認証・登録は2005 年に第一号が生まれていますから、移住の時期がちょうど審査員募集のタイミングと合致したのですね。

審査員として心がけていること

エコアクション 21 審査員は、全国で約 550 名登録されており、県内で現在 7 名が活躍しています。私は過去 18 年間でエコアクション 21 の審査を 374 回実施し、県内では最も経験豊富となりました。現在は、年間 10 件程度を担当しています。

審査員の仕事は、第一に「自分の勉強になる」と感じています。環境に関するプロであるために、勉強が欠かせません。環境関連の法改正は頻繁ですので、常にアップデートする必要があります。

また、審査員の重要な役割は、「経営」を重視して、その会社のために何ができるかを考えアドバイスすることだと考えます。事業者と共に環境経営における課題を発見し、解決までの道のりを伴走することが求められます。経営のトレンド情報にアンテナを高くし、経済団体の会報誌に目を通すなどして研鑽を積んでいます。



自宅のコメツツジ。
米粒のように
小さい花が特徴。
花色は産地によって
白から深紅と異なり
それが魅力だそう。

コミュニケーションを大切に

現地審査では、代表者とのコミュニケーションを大切にしています。担当者もベテランの方から若い方まで様々で、同年代の考え方も学べますし、世代が違う方の考え方も吸収できます。時には、社長さんと役員を務める息子さんの間に入って、社長さんを説得することもありました。審査員の仕事をしていると、人には色んな考え方があることを理解できるので、考えが若いのでしょう。元来、仕事が趣味ですので、80 歳を超えても現役で審査員を続けているのだと思います。



住みよい地球・地域環境を

実家は、自営業の傍ら農業を営んでおり、子供の頃から自然に親しみ育ちました。父は生花の家元で、生ける材料を野山に分け入り自ら調達する流儀でしたので、よく連れていかれたものです。幼少期の体験が、環境保全への思いにつながっていると感じます。

「環境」は、企業が成長する要素として重視され、カーボンニュートラルへの理解も深まっています。審査員として環境経営を目指す事業者を支援することが、住みよい地球・地域環境をつくと信じ、エコアクション 21 にこれからも携わっていきます。

